

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 10月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	0173100223		
法人名	社会福祉法人じねん		
事業所名	グループホーム愛敬		
所在地	上川郡愛別町字豊里291 - 2 (電話) 01658-6-6555		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成19年9月19日	評価確定日	平成19年10月22日

【情報提供票より】(19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)13年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 6人, 非常勤 13人, 常勤換算	14.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	16000 ~ 21,000 円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3	要介護2	5		
要介護3	5	要介護4	5		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85.2 歳	最低	71 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	愛別町立診療所・当麻町立診療所・愛別歯科医院・大雪病院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は農村部の田園地帯に位置しており、全体的にほのぼのとした落ち着いた雰囲気有している。簡潔で明確な理念の基、職員は利用者のペースを尊重したケアサービスを実践している。また、医療機関との連携により重度の利用者の受け入れや終末期対応も積極的に行っている。日常的に主治医が往診しており、家族・医師・看護師・職員と連携が密に取れ医療面においても充実していることから、利用者本人・家族の安心に繋がっている。開設当初から地域住民や行政と協議による交流行事が行われており、協働によって地域に根ざした事業所づくりがなされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での課題であった利用者の権利・義務について、目が届きやすく分かりやすい場所に掲示され改善されている。また、利用者の金銭管理については家族と話し合いの上で本人の力量に応じて金銭を所持してもらうと同時に事業所にて管理する体制が築かれ改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で協議して自己評価に取り組み、ケアサービスの質の向上に努めている。また、今回の外部評価の際にも積極的な情報提供がなされた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議の設置以前から地域や行政と密に相談や情報交換・情報開示が行われている。会議では事業所の現状や課題について話し合われており、協働してケアサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>来訪時に家族へ利用者の生活状況を報告し、家族の意見・要望等を聞いている。家族から出た意見については日々のミーティングにて話し合い、速やかに対応している。また、2ヶ月に1度金銭出納についての報告がなされている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>納涼祭・クリスマス会などの事業所の行事には、毎年利用者家族のみならず近隣住民や行政職員も多数参加しており、盛大に開催されている。行事は地域において親睦を深めたり事業所への理解の浸透機会ともなっている。また、近隣小学校の子供達との交流会や地域の老人大学への訪問など、地域との交流が積極的に図られている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時に全職員で話し合い「のびのび、にこにこ、暖かく。ゆっくり、いっしょに、楽しく。」という事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティング時に理念を唱和し、職員間で共有が図られている。また、常に理念を念頭におき日々のケアサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	納涼祭やクリスマス会などの事業所の行事には、毎年家族のみならず近隣住民や行政職員も参加し盛大に開かれており、地域との交流を深める機会となっている。また、小学生との交流会や地域の老人大学への定期訪問が行われており、地域住民への事業所の理解が浸透している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価における課題について具体的な改善に努めている。また、全職員で話し合いながら自己評価に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族会・民生委員・行政職員・地域包括支援センター職員が構成員となり、2ヶ月に1度運営推進会議が開催されている。以前から地域や行政機関と密に連絡を取り情報交換を行っていたため、会議開催により一層事業所への理解が深まっている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>利用者の入居状況や事業所の行事等について行政担当者に報告がなされている。また、事業所の現状や課題について話し合いが行われたり事業所便りの配布作業や利用者家族との連絡調整に関して行政の協力が得られており、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1度利用者の暮らしぶりや健康状態等について家族に報告している。また、来訪時や家族会開催時に情報提供がなされている。しかし、職員の異動について詳細な報告を行うまでには至っていない。</p>	○	<p>今後、職員の異動についても詳しく報告・説明し、より一層家族との信頼関係を深めることが期待される。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や家族会にて家族の意見・要望等を聞く機会を設けている。また、職員は家族の来訪時に積極的な声掛けをして意見・要望を聞き、ミーティングで話し合い運営に活かしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>日頃から同法人の他事業所との職員交流が行われて利用者とは他事業所職員も顔馴染みとなっており、職員の異動に際して利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は全職員が年に1度外部研修に参加する機会を設けており、職員は積極的に受講している。受講後は職員間で報告がなされ報告書に記載され、研修内容の共有が図られている。また、月に1度内部研修が実施されており、知識と技術を習得できる機会が設けられている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入し職員は積極的に研修会に参加しており、当事業所は道北地区における組織の中心的役割を担い相互交流に努めている。また、管内にて他事業所と意見交換・情報交換を行っており、ネットワークが構築されている。</p>		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に職員は利用者本人・家族と面談したり事業所に見学に来てもらい、顔馴染みの関係を構築してからの入居開始となるよう工夫している。また、「あわてないこと、待つこと」を職員のケアサービスにおける基本として徹底されており、安心して穏やかな生活を過ごせるような配慮がなされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理・洗濯物たたみ・歌など職員が利用者から教えてもらう機会が多く、一方的な支援にならず一緒に楽しみ支え合う関係が築かれている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は利用者との日々の暮らしや関わり合いの中で密にコミュニケーションを図り、希望や意向を把握できるよう努めている。また、困難な場合は利用者の表情からも心情を汲み取り、本人本位となるよう検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月に2回行われているケースカンファレンスにおいて利用者の状態を検討し職員間で話し合い、利用者家族の希望を採り入れた介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヶ月に1度アセスメントの内容を見直し、3ヶ月ごとに介護計画を見直して6ヶ月ごとに介護計画を作成している。また、利用者の身体状況に変化があった場合はそのつど家族と職員で協議し、現状に即した介護計画となるよう支援している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院への付き添いや買い物・行事参加への送迎など、柔軟な支援を実践している。また、終末期ケアへの対応や長期入院に至る際の連絡調整、退院後のリハビリ対応など、重度化になった場合も利用者が安心して生活できるような体制が築かれている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	月に2回利用者のかかりつけ医による往診を受けたり協力医療機関との連携も密に取れており、柔軟な医療支援が行われている。また、医師や看護師と随時連絡が取れるような体制が築かれており、緊急時の対応も万全である。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化や終末期の方針に関して事前に利用者家族へ説明がなされて事業所内にて医療支援が受けられる体制が整備されており、家族と十分に協議しながら実践している。また、重度化や終末期についての職員研修を実施している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員は利用者のプライバシーを損ねることのないような声かけや対応を実践している。また、介護に関する記録物に関する保管場所が取り決められており、適切に処理されている。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	職員は利用者のペースを大切に、一人ひとりの生活歴や思い・趣味を活かして過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・食事の準備・調理・後片付けなど利用者の力量に応じて職員と一緒にしている。また、食後には利用者が合唱するなど楽しいひとときを過ごしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することが可能であり、利用者の希望や身体状況に応じた支援を行っている。浴室は利用者が動きやすいような配置になっており、寛いで入浴できるような工夫がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や畑仕事・掃除など、利用者の生活歴や力を活かせるような気晴らしや楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・観光・外食など、利用者の希望に合わせた外出支援を行っている。また、事業所内でリハビリ体操や廊下を活用した散歩などのプログラムが組まれており、利用者が運動不足にならないような配慮がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠しており、日中は鍵をかけておらず利用者が自由に出入りできるようになっている。また、利用者が外出しそうな様子の時には職員がさりげなく見守ったり付き添うなど、利用者の希望や心情に合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災避難訓練を実施しているとともに、災害時に備えて対応できるよう研修が行われている。また、行政や地域との連携が取れており、緊急時に協力が得られるような体制が築かれている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量・水分摂取量が記録されており職員は把握している。また、利用者の健康状態に合わせて調理方法や盛り付けにも工夫がなされている。年に1回献立を栄養士に栄養価計算の確認をしてもらい、バランスの摂れた献立内容になっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には大きなソファが設置されており、利用者が寛げるような居場所が確保されている。また、共用空間から少し離れた場所にもゆったりと過ごせるような場所があり、利用者は思い思いに過ごしている。また、壁飾りや折り紙などが飾られており、事業所内でも季節を感じられるような工夫がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家具・布団・仏壇など利用者の馴染みの物が持ち込まれており、利用者が居心地よく過ごせるような空間になっている。また、利用者と職員と一緒に考えて居室内の模様替えを行うこともある。		

 は、重点項目。